

巷にあふれる非抜歯矯正 ～これでホントに大丈夫？～

樋口 育伸 先生

「歯を抜かないで治療できますか？」「歯を抜かないでできる方法があると聞いたんですが…」などと聞かれることがしばしばある。インターネットでありとあらゆる情報が簡単に手に入る現在、正しい情報も誤った情報も否応なく飛び込んでくる。受け手はその情報が本当に確かなものか否かを冷静に見極める目を持つことが大切である。しかしながら、知らず知らずのうちに自分にとって都合の良い情報だけをピックアップしてしまい、あたかもそれが正しいものと錯覚してしまうことも起こり得る。そして、それは矯正治療に関しても例外ではない。

非抜歯治療こそが最新の矯正治療、高度な技術を用いた治療であるかのように唱え、患者さん誰もがそうできると訴えかける。“歯はできるだけ抜きたくない” “大切な歯を失うことなく、歯ならび、かみ合わせを治すことができるのなら” という当然の心理につけ込み患者さんを治療に誘導するような医療広告や情報が氾濫している。

矯正治療を開始する前には必ず検査（資料採得）→分析→診断→治療計画立案→治療方針決定のプロセスを踏む。問題点を整理し、調和がとれた顔貌、歯列、咬合を獲得するにはどうすればよいのかをさまざまな角度から検討する。患者さん一人ひとりに合った最良のプランは一つの場合もあればいくつか考えられる場合もある。患者さんの希望がなくても診断結果から当然考えられる治療方針案を説明する義務が矯正医にはある。日常臨床においてはその中から各々のメリット・デメリット、患者さんの要望、矯正医の力量等を加味し実現可能な方針が決定されることになる。

矯正治療において抜歯／非抜歯の問題は決して目標ではなく、目標達成のための手段である。“歯を抜かない” という聞こえのよい言葉を“患者さん本位の矯正治療” にすり替え、集患の手段に使っているとしか思えない今の状況は、矯正治療に対して社会からの評価を下げるばかりか信頼を失ってしまうことになりかねない。

ここでは、矯正治療における抜歯／非抜歯問題の現状について述べてみたい。

樋口 育伸 先生

ひぐち矯正歯科（福島県福島市開業）